



2ハンドル 混合栓

台付タイプ

取扱施工説明書

施工前・使用前に必ずお読みください。

お読みになった後は、いつでも見られる所に必ず保管してください。

このたびは、2ハンドル混合栓をお求めいただきまして、まことにありがとうございました。

施工の前に…

- 温泉水・中水・飲用不可な井戸水には使用しないでください。
- 元止式湯沸器には使用しないでください。
- 給湯に蒸気を使用しないでください。

使用圧力条件について…

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.2MPa程度に減圧してください。
- 給水・給湯圧力は圧力差があると、温度調整がしにくくなります。やけど防止のため、給水圧力は、給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。
- * 電気温水器と組み合わせる場合は、特に注意してください。

安全上のご注意

施工前、使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく使用してください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果(傷害・物損)に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注意 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか、または、物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

注意 気をつけていただきたい「注意」を表します。

禁止 指定した場所に触れないでください。

禁止 してはいけない「禁止」を表します。

必ず実行 必ず実行していただく「強制」を表します。

施工上のご注意

- 禁止**
 - 湯と水を逆に配管しないでください。やけどや器具破損の恐れがあります。
 - 給湯温度は85℃以上で使用しないでください。85℃より高温で使用されますと、製品の寿命が短くなるだけでなく、各部品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
 - 製品にもたれるなどして無理な力を加えたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。ケガをしたり、製品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
- 注意**
 - 他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯を使用中に湯温が急上昇することがあります。やけどの恐れがありますので、やけどの恐れがないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。
- 必ず実行**
 - 配管内のゴミや砂などは完全に洗い流してください。
 - 給湯機からの配管は配管圧力損失を少なくするため最短距離で配管し、必ず保温材を巻いてください。
 - 各部の接続を行う際は、パッキンがついていることやそれらに破損・変形がないか必ず確認してください。漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
 - 水勢調節および器具の点検を容易にするために、別途止水栓を必ず設置してください。
 - 凍結が予想される場合は、配管と水栓の水抜操作を同時に行ってください(寒冷地仕様)。凍結破損により漏水し、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。

使用上のご注意

- 禁止**
 - 給湯温度は85℃以上で使用しないでください。誤った操作によるやけどを防止するため、給湯温度は60℃程度をおすすめします。
 - シャワーヘッドには60℃以上のお湯を通さないでください(シャワーつきの場合)。シャワーヘッドの変形や破損により、やけどやケガをする恐れがあります。やけどを防止するため、45℃程度以下をおすすめします。
 - シャワーを使用して浴槽に湯をはらないでください(シャワーつきの場合)。シャワーヘッドがこわれたり、逆流の恐れがあります。
 - 製品にもたれるなどして無理な力を加えたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。ケガをしたり、製品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
- 注意**
 - 湯側ハンドルのみを開く場合、高温の湯がそのまま出ます。取扱いには十分注意してください。
 - 小さいお子様だけの使用は避けてください。やけどやケガをする恐れがあります。
 - 他所の水栓を同時使用されると、やけどの恐れがありますので注意してください。同時使用により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。
- 接触禁止**
 - 水栓本体の左側は給湯側のため高温になっています。金具の表面に直接肌を触れないでください。
 - 高温の湯を使用する際は、吐水口(パイプ)に直接肌を触れないでください。吐水口(パイプ)は高温になっているため、やけどをする恐れがあります。
- 必ず実行**
 - 使用する前に、必ず適温であることを確かめてください。高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。
 - 使用する前に吐水口(パイプ)側かシャワー側かを切替ハンドルで確認してください(シャワーつきの場合)。高温の湯を使用する際に間違えると、やけどをする恐れがあります。
 - ハンドルはゆっくり操作してください。ハンドルを急に閉めると配管に衝撃が加わり、配管からの漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
 - 湯を使用する際は、水側ハンドルから開栓してください。その後ゆっくり湯側ハンドルを開栓し、お好みの温度に調節してください。湯側ハンドルを先に開栓すると高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。
 - 湯を使用後は、必ず水側ハンドルを開栓し、しばらく水を流してから止水してください。次に使用する際に、水栓内に残っている高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。
 - 凍結が予想される場合は、配管と水栓の水抜操作を同時に行ってください(寒冷地仕様)。凍結破損により漏水し、家財などを濡らす財産損害発生恐れがあります。
 - 可動部分が固くて動きが悪い場合は、水あか固着や潤滑剤切れです。放置すると故障の原因になりますので補修してください。

施工に必要な工具

* 品名の下に品番のある工具は弊社の製品です。

● モンキーレンチ



● プラスドライバー

* バスシャワーのみ



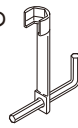
● 電気ドリル及びドリルの刃

* バスシャワーのみ

● ドリルの刃

| | | |
|--------|----|--------|
| 壁 | 下穴 | 適合ドリル |
| コンクリート | | 6 ミリ |
| ALC | | 5.5 ミリ |

● 立カラン締め (6030)



● アンカープラグ 呼 6×30

* バスシャワーのみ

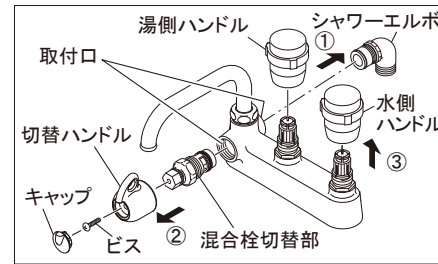


取付けの前に

● パイプ取付位置の変更方法(152-302の場合)

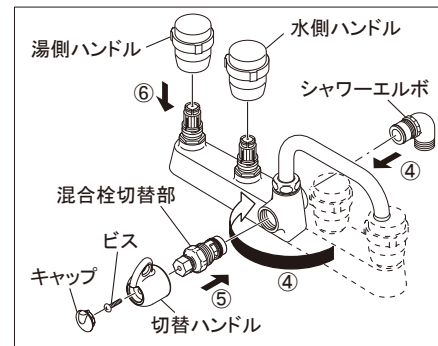
152-302はパイプの取付位置を本体の右側・左側どちらでも使用できます。購入時はパイプは左側で梱包しておりますので、パイプを右側で使用する場合は、以下の手順で組替えを行ってください。

* 取付後はパイプ位置の左右を変更できませんので、必ず、取付前に以下の作業を行ってください。



- ① シャワーエルボを、「レンチ」などでゆるめて取外します。
- ② キャップ、ビス、切替ハンドルを順に取外し、混合栓切替部を「レンチ」などでゆるめて取外します。
- ③ 湯・水両側のハンドルを上方向に引っ張って取外します。

注意 取外しの際は、指などをケガしないよう注意してください。



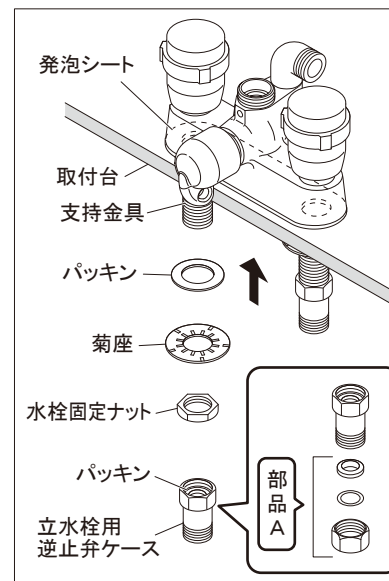
- ④ 混合栓本体を180°回転させて、①で取外したシャワーエルボを奥側の取付口に「レンチ」などで締付けます。
- ⑤ ②で取外した混合栓切替部を「レンチ」で締付け、切替ハンドル・ビス・キャップを、手前の取付口に取付けます。
- ⑥ 湯・水両側のハンドルを組替えてしっかりと締め込みます。

必ず実行 湯・水両側のハンドルの組替えは必ず行ってください。湯・水の表示が配管と逆になるため、誤った操作によるやけどの恐れがあります。

取付方法

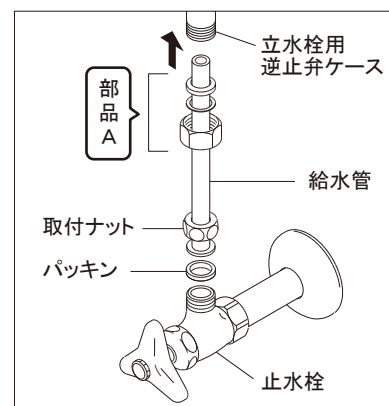
* 数秒間水を流し、配管内のゴミなどを洗い流してから、元栓を開けて取付作業を行ってください。

1. 混合栓本体を取付けます。



- ① 支持金具より水栓固定ナット・菊座・パッキンを取外し、混合栓本体の底面に発泡シートが貼付けられていることを確認します。
* 部品が別袋に入っている場合は、この作業は必要ありません。
- ② 混合栓本体を取付台に差込みます。
- ③ パッキン・菊座の順で支持金具に差込み、水栓固定ナットを「立カラン締め」などで締付け、しっかりと固定します。
- ④ 部品Aを取外した立水栓用逆止弁ケースを支持金具に取付け、「立カラン締め」などで締付けます。
* 立水栓用逆止弁ケースが同梱されていない機種の場合はこの手順は必要ありません。「2.給水管を接続します。」へ進んでください。
* 立水栓用逆止弁ケースに湯用・水用の指定のある機種があります。注意してください。
* 部品Aは止水栓の給水管との接続に使用します。立水栓用逆止弁ケースが同梱されていない機種には部品Aと同様の部品が同梱されています。

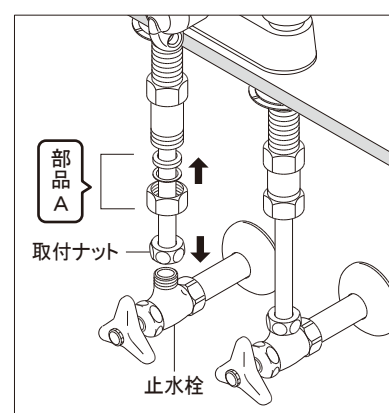
2. 給水管を接続します。



- ① 止水栓の給水管に「1.混合栓本体を取付けます。」の④で取外した部品Aを図の順番を参考ににはめ込み、止水栓から取付ナットを外しておきます。
* 立水栓用逆止弁ケースが同梱されていない機種には部品Aと同様の部品が同梱されています。
- ② 給水管を立水栓用逆止弁ケースの差込口に奥までしっかりと差込みます。
* 立水栓用逆止弁ケースが同梱されていない機種の場合は、支持金具に直接給水管を差込んでください。

禁止 本品と止水栓との接続には、フレキパイプなどは絶対に使用しないでください。漏水を起こし、家財などを濡らす恐れがあります。

3. 止水栓へ接続します。



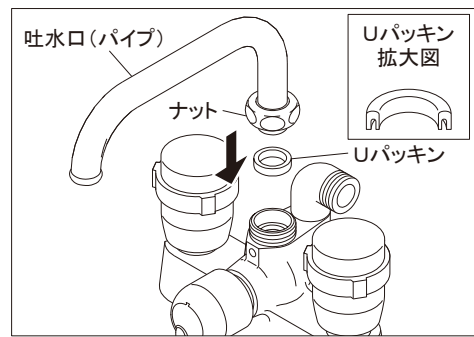
- ① 取付ナットを止水栓に「レンチ」などで締付けて、接続します。
- ② 部品Aを立水栓用逆止弁ケースへスライドさせて「立カラン締め」などで締付け、しっかりと固定します。
* 立水栓用逆止弁ケースが同梱されていない機種の場合は、支持金具に直接給水管を固定してください。

裏面へ続く➡

取付方法(つづき)

4. 吐水口(パイプ)を取付けます。

*すでに吐水口(パイプ)が本体に取付けられている場合は「5. シャワーホースを取付けます。」へ進んでください。



- 吐水口(パイプ)ナット部の白キャップとUパッキンを取外し、図を参考に溝の部分を下向きにしてUパッキンを本体側に挿入します。
- 吐水口(パイプ)を差込み、ナットを締付けます。

注意 Uパッキンの挿入方向をまちがえたり、傷をつけたりした場合、水漏れや回転不良の原因となります。

5. シャワーホースを取付けます。

*シャワーなし混合栓の場合は、「●取付後の点検」に進んでください。

- 使用中のシャワーフック(混合栓)のメーカーを確認し、両端の接続ナットから、シャワーフックのメーカーに合わせて適合するナットを選びます。

| メーカー | ナットの形状 | メーカー | ナットの形状 |
|---------|--------|------|--------|
| KAKUDAI | | INAX | |
| TOTO | | KVK | |
| SAN-EI | | | |

- ①で選ばなかった接続ナットにパッキン(外径約19ミリ)を入れ、手締めで混合栓本体後ろのシャワーエルボに取付けます。

注意 シャワーホースはねじれなどが起きないように注意しながら、手締めでシャワーエルボに取付けてください。破損する恐れがあります。

- ①で選んだ接続ナットにシャワーヘッドを取付けます。

| シャワーフック(混合栓)のメーカーが「KAKUDAI、TOTO、SAN-EI」の場合 | シャワーフック(混合栓)のメーカーが「INAX、KVK」の場合 |
|--|---------------------------------|
| | |

*新たにシャワーフックを取付ける場合は、別途、シャワーフックをお求めください。

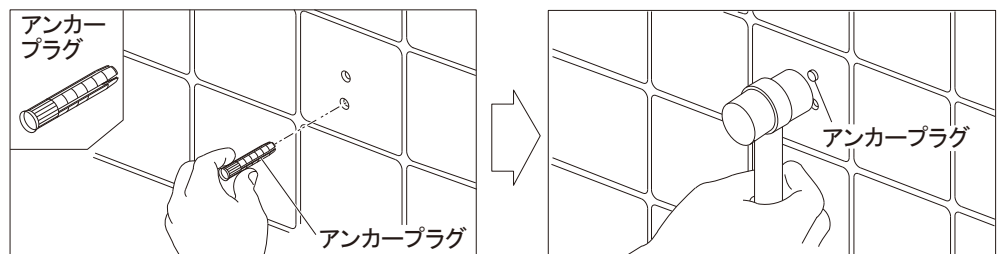
6. シャワーフックを取付けます。

*すでに取付けられているシャワーフックを利用する場合、シャワーホースのTナットがシャワーフックにしっかりと固定できる場合は、取付ける必要はありません。

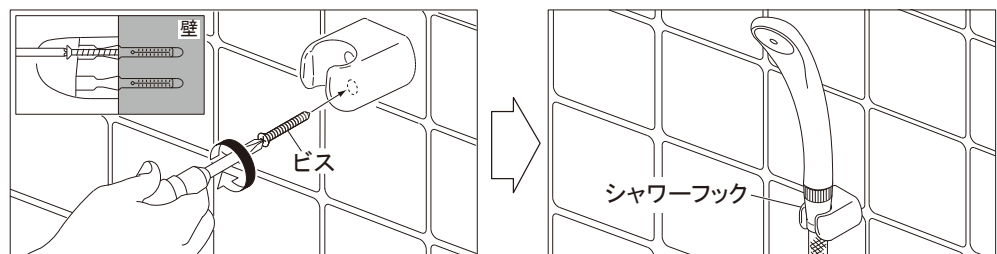
*壁に取付穴をあける際は、下記の要領で「コンクリートドリル」または、「超硬ドリル(タイル張りの場合)」を使用してください。(表面 施工に必要な工具 参照)



- シャワーフックの位置を決め、壁にネジ穴をマーキングして「電気ドリル」で穴をあけます。



- ネジ穴に「アンカープラグ」を差込み、壁からはみ出さない程度に軽くたたき、埋込みます。



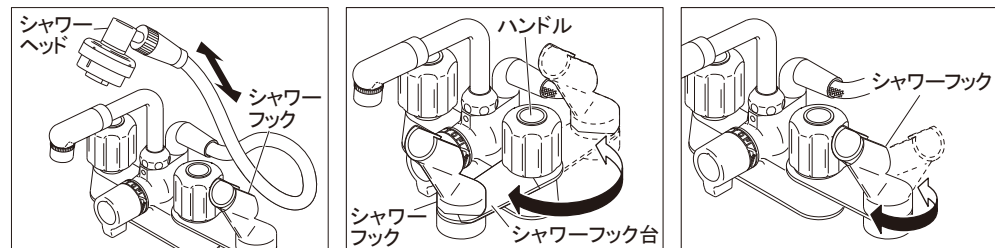
- シャワーフックを壁に取付け、「ドライバー」などでビスをしっかりと締付けます。
*シャワーフックの取付け向きは、シャワーホースの差込口が広い方を上にしてください。

●取付後の点検

元栓を開き、各部に漏水がないかを確認してください。
漏水が発見された場合は、元栓を閉め、漏水する箇所を施工し直してください。

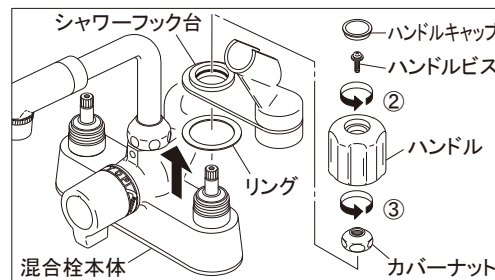
使用方法

●シャワーフック・シャワーフック台の使用方法(1521Sの場合)

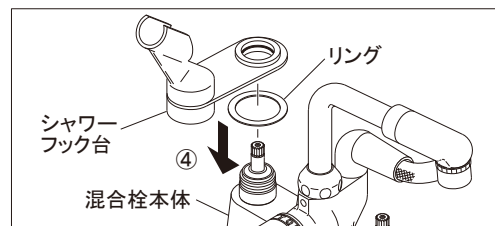


シャワーヘッドをシャワーフックに固定したり、取外したりすることができます。シャワーフック台は回転します。シャワーフックは回転します。

●シャワーフック台の取付位置の変更方法(1521Sの場合)



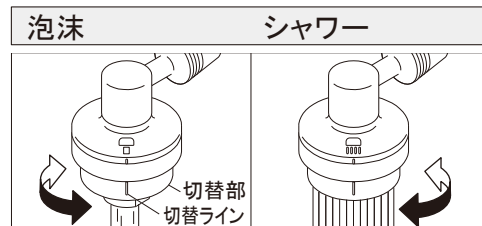
- 止水栓または元栓を閉めて止水します。
- 湯・水両側のハンドルキャップを外し、「ドライバー」などでハンドルビスをゆるめてハンドルを取外します。
- 湯・水両側のカバーナットを「レンチ」などでゆるめて取外します。



- シャワーフック台、リングを混合栓本体より抜き取り、取付位置をかえて混合栓本体に差込みます。
- ②～③の逆の手順で組直します。

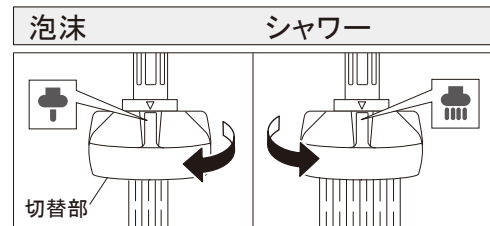
必ず実行 シャワーフック台の取付位置を変更する場合は、必ず止水栓または元栓を閉めてから作業を行ってください。

●シャワーヘッドの使用方法(1521Sの場合)



切替部をまわして切替ラインを「」表示に合わせると「泡沫吐水」になります。切替部をまわして切替ラインを「」表示に合わせると「シャワー」が出ます。

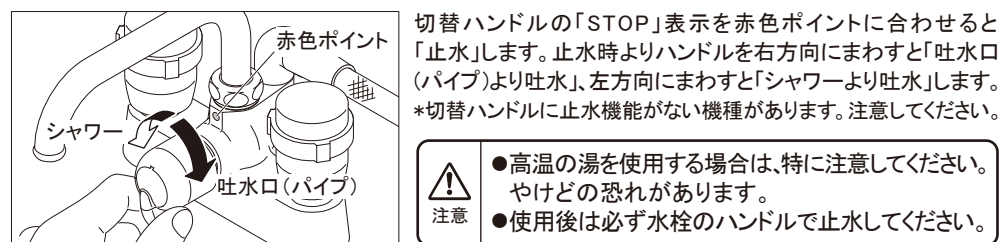
●切替シャワーの使用方法(151-007(K)・008(K)の場合)



切替部を左にまわすと「泡沫」になります。切替部を右にまわすと「シャワー」が出ます。

注意 ●フレキパイプは無理に曲げないでください。折れたり破損したりする恐れがあります。
●高温の湯を使用する際は、切替シャワー先端の金属部が熱くなっています。直接肌を触れないでください。

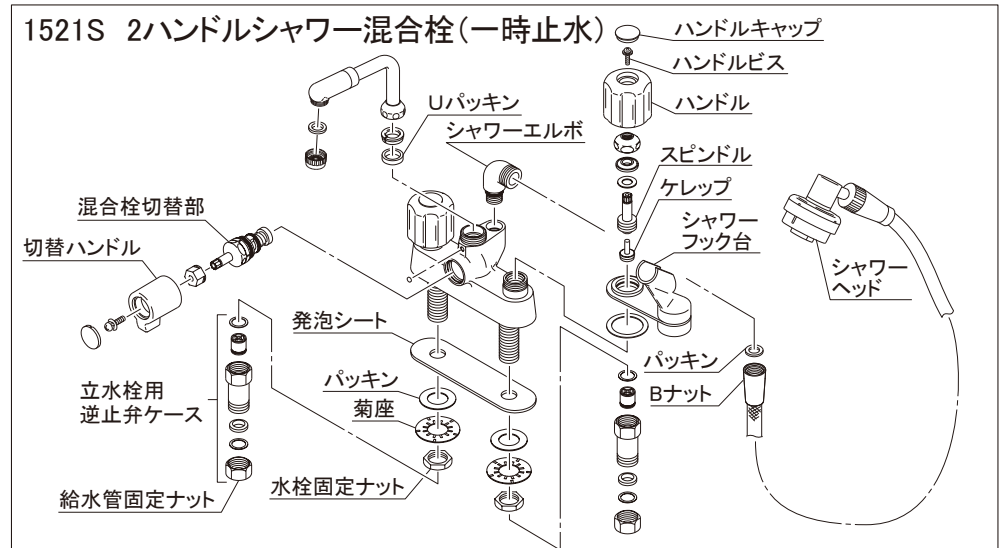
●切替ハンドルの操作方法



切替ハンドルの「STOP」表示を赤色ポイントに合わせると「止水」します。止水時よりハンドルを右方向にまわすと「吐水口(パイプ)より吐水」、左方向にまわすと「シャワーより吐水」します。
*切替ハンドルに止水機能がない機種があります。注意してください。

注意 ●高温の湯を使用する場合は、特に注意してください。やけどの恐れがあります。
●使用後は必ず水栓のハンドルで止水してください。

分解図



*表記イラストは参考商品です。品番によっては、図と製品の形状が一部異なります。
*製品改良のため、部品仕様などを予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

(販売元)

atelier DADA 株式会社

〒800-0217 福岡県北九州市小倉南区下曾根2丁目11-16
☎(093)967-8002

(製造元)

株式会社 **カクダイ**

0818GF

M-A8003
無断転載・複写を禁ず